

## 希望が丘文化公園基本計画の検討状況について

### 1 背景

希望が丘文化公園は年間約 90 万人が来園する中、開園後 40 年以上が経過し、社会情勢や利用者ニーズの変化に応える満足度の高い公園づくりが求められている。また、平成 32 年の東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会や平成 36 年の本県での国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の開催に向けて、スポーツ・健康づくりの機運が高まっている。このような背景を踏まえ、平成 27 年 12 月に「希望が丘文化公園将来ビジョン」を策定し、さらに希望が丘文化公園の機能強化や関係機関の連携、施設の更新等を着実に実施していくため「希望が丘文化公園基本計画」を策定することとした。

### 2 検討の経過

今年度、利用者や関係機関、有識者等の意見を伺いながら、以下の事項について分析・検討を進めてきた。

- ・各施設および事業の利用の状況と課題
- ・各施設の老朽化の状況
- ・スポーツ活動や自然体験活動の重要性
- ・希望が丘文化公園の特徴と今後の取組の可能性
- ・周辺施設との連携の可能性 等

#### <経過>

平成 28 年

- 5 月 18 日 検討の進め方について常任委員会で報告
- 8 月 5 日 希望が丘文化公園利用者懇話会 (構成：利用者団体)
- 8 月 24 日 希望が丘文化公園運営推進協議会 (構成：関係市町等)
- 10 月 18 日 第 1 回希望が丘文化公園基本計画検討懇話会 (構成：有識者)
- 12 月 1 日 第 2 回希望が丘文化公園基本計画検討懇話会

#### <主な意見>

##### (1) 希望が丘文化公園利用者懇話会 (平成 28 年 8 月 5 日)

- ・芝生ランドなど京都や大阪にはないものがあるという PR が大事ではないか。
- ・できる喜び、教える喜びを味わえるような取組を進めると良いのではないか。
- ・希望が丘は滋賀県の宝であり、県外から見ても大切な場所だ。45 周年という素晴らしい歴史の側面として、青年の城の雨漏りなど老朽化への対応の検討をお願いしたい。
- ・トイレはその建物の印象として人の記憶に残るもの。人が使わなければならない設備を綺麗にすると集客力が上がるという観点からも施設のあり方を考えてほしい。

##### (2) 希望が丘文化公園運営推進協議会 (平成 28 年 8 月 24 日)

- ・高齢者が利用しやすい公園づくりということをコンセプトの中に入れてほしい。
- ・2 市 1 町と関わりのある事業ができればと思う。
- ・アウトレットは年間 500 万人の利用があり、アウトレットと連携した取組を検討してはどうか。

- ・キャンプリーダーのサポートなどのパッケージ化ができれば利用につながるのではないか。

(3) 第1回希望が丘文化公園基本計画検討懇話会（平成28年10月18日）

- ・希望が丘文化公園が他の県内外の施設と比べてどのような価値を持っているのか明確にすべきではないか。
- ・グラウンド・ゴルフやクロスカントリーなど新しいスポーツの環境整備がされてきており、全世代型スポーツを实践できる場として整備するという方向も考えられるのではないか。
- ・企業対象のチームビルディングなど体験活動の対象を青少年から広げてはどうか。
- ・高齢者とともに障害者への配慮として、歩く距離を短くする、段差をなくすといったことも考えていただきたい。

(4) 第2回希望が丘文化公園基本計画検討懇話会（平成28年12月1日）

- ・芝生ランドを活かした全国大会の誘致が希望が丘の特徴ある展開でもあり、そうした全国大会を開催できるよう順次スポーツ施設を整備すべきではないか。
- ・施設を使用する側にとっては、安全面の確保が大事である。その観点も踏まえて優先順位をつけながら整備していく必要があるのではないか。
- ・単発の取組ではなく、段階的に学び行動できるプログラムを用意すると学校側も利用しやすくなるのではないか。

### 3 策定スケジュールの見直しについて

今年度中の基本計画策定を目指して検討を進めてきたところであるが、引き続き、より丁寧に利用者、関係機関等の意見を伺いながら内容を調整・検討する必要があるため、策定スケジュールを見直すこととする。

#### <主な論点>

- ・開園後40年以上が経過する中で変化してきた利用ニーズや周辺の施設の立地等を踏まえ、今後どのような役割を公園が果たすべきか。
- ・「国体主会場選定評価報告書」の付帯意見を踏まえ、本県での国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の開催も契機として、希望が丘文化公園をスポーツ・健康づくり等にどのように活用していくか。
- ・今後の活用の方向性を踏まえ、開園後40年以上が経過し老朽化している施設の整備等をどうするか。

#### <スケジュール（予定）>

平成29年	7月中旬	基本計画骨子案（社会情勢の変化や国体開催等を契機とした公園の今後の方向性）
	10月上旬	基本計画素案（方向性を踏まえた事業・施設の整備等の方針案）
	12月中旬	基本計画パブコメ案
平成30年	1月	意見・情報の募集
	3月中旬	基本計画（意見・情報の募集結果）
	3月下旬	基本計画策定

(参考) 利用者懇話会等の構成員

(1) 希望が丘文化公園利用者懇話会 (平成 28 年 8 月 5 日)

所属等	氏名
野洲高等学校 校長	井上 次雄
滋賀県グラウンド・ゴルフ協会 理事長	林 勝彦
滋賀県テニス協会 ジュニア強化担当	菅原 万智子
ヨシネットワーク	鳥飼 和夫
滋賀県レクリエーション協会 副会長	二宮 保
滋賀県シェアリングネイチャー協会	坂田 義治
滋賀県フライングディスク協会 副会長	久保 和之
公園サポーター	白川 一馬

(2) 希望が丘文化公園運営推進協議会 (平成 28 年 8 月 24 日)

所属等	
野洲市	企画調整課
	学校教育課
	生涯学習スポーツ課
湖南市	地域創生推進課
	商工観光労政課
湖南市老人クラブ連合会	
竜王町	政策推進課
	学校教育課
	生涯学習課
	商工観光課
竜王町老人クラブ連合会	
滋賀県	スポーツ課(国体・全国障害者スポーツ大会準備室)
	子ども・青少年局
	生涯学習課

(3) 希望が丘文化公園基本計画検討懇話会 (平成 28 年 10 月 18 日、12 月 1 日)

所属等	氏名
滋賀大学経済学部 教授	北村 裕明
びわこ成蹊スポーツ大学 教授	黒澤 毅
京都大学大学院地球環境学堂 准教授	深町 加津枝
滋賀県レクリエーション協会 会長	前山 亨
大谷大学教職支援センター 教職アドバイザー	美濃部 俊裕
滋賀県スポーツ推進委員協議会 会長	山本 博一

